

東京商工会議所の試験要綱(2014年度版による)

2級・3級の範囲に該当する法律および関連法令から出題される。

1.出題形式と試験時間

1級の出題形式は、論述問題である。

→共通問題×2問－午前中2時間・選択問題4問中2問選択－午後2時間

2.合格ライン

共通問題・選択問題の200点を満点とし、各問題ごとに50%以上でかつ合計点が140点をもって合格とする。

3.出題範囲

①共通問題(2問必須)

民法および商法を中心に、できるだけ全業種に共通して発生することが考えられる法律実務問題を出題するとされている。

②選択問題(4問中2問選択)

特定の業種に関連する一定の法律をクローズアップして出題するとされている。法務実務の担当者が遭遇するであろうさまざまな場面を想定して出題される。

具体的には、以下の事例などにより実務対応能力を試験するものとされている。

(a)取引上のトラブルを処理

(b)取引関係に立たない第三者とのトラブルを処理

(c)法務関係の上司や弁護士などの専門家に法的トラブルの顛末・処理方法を報告

(d)予防法務的観点からトラブルになりそうな問題に対応

4.六法について

試験会場に市販の六法(書籍のみ:電子版は不可)を持ち込むことは認められている。また、持ち込み可能な六法の複数使用は認められている。

但し

- ① 判例付き六法は禁止。
- ② 書き込みのある六法は禁止。もともと、アンダーラインは書き込みには含まれない。

5.筆記用具について

HBまたはBの黒鉛筆又はシャープペンシルである。プラスチック消しゴムの使用は許可されている。

1 級試験の傾向と対策

(1) 例題

宅配業を営むX株式会社の従業員であるAは、仕事を終えてX社所有の営業用自動車を運転して帰宅する途中、Y株式会社所有の営業用自動車で得意先回りをしていたY社の従業員であるBの運転する自動車と衝突事故を起こし、歩行者Cをはね飛ばして傷害を負わせて、Cに治療費など250万円の損害を与えた。この事故は、Aのわき見運転とBの居眠り運転により発生したもので、AとBの過失割合は4対6と判断されており、その点に争いはない。なお、X社は自社の営業用自動車をBが通勤に使用することを黙認していた。以上の事例を前提に以下の設問に答えなさい。

設問(1)

Cは、誰に対して、いかなる法的根拠に基づいて損害賠償請求をすることが考えられるか。

設問(2)

X社がCに対して損害賠償として250万円全額を支払った場合、X社は、Aに対して求償することができるか。求償できるとした場合、その全額を求償できるか。その法的根拠とともに答えなさい。

設問(3)

X社がCに対して損害賠償として250万円全額を支払った場合、X社は、Y社に対して求償することができるか。求償できるとした場合、その全額を求償できるか。その法的根拠とともに答えなさい。

(2) 傾向

上記の例題のように共通問題・選択問題ともに、前提の事例があり、その上で、設問(1)、設問(2)などのように、細かく分かれて出題されている。また、設問(1)がさらに細かく小問(1)、小問(2)などに、あるいは、小問①、小問②などのように分かれている場合もある。そして、ほとんどの問題において、細かい問題が3つから5つ出題されている。

形式的には上記のような出題であるが、前述の出題範囲に照らすと、2級・3級の範囲に該当する法律、すなわち、2級・3級の知識からおおよそ7割から8割出題されており、残りの2～3割が2級・3級の範囲に該当する法律の関連法令や近時の判例から出題されている。

(3) 対策

2級・3級の範囲に該当する法律の関連法令や近時の判例からの出題部分については、出題割合が少ない上に、この部分を解答できるようにするためには、2級・3級の知識がしっかり身についていることが前提となる。また、この部分については、完璧に解答できなくても、致命傷とはならないようである。したがって、知らないところからの出題があると不安だからといって、2級・3級の知識を疎かにしたまま、この部分の対策に走るのは得策ではない。

重要なのは、7割から8割出題されている2級・3級の範囲に該当する法律、すなわち、2級・3級の知識に関する問題で確実に得点を積み上げることである。したがって、1級の試験対策としても、まずは、2級・3級の知識をもう一度しっかり整理することが一つのポイントとなる。

ただ、注意が必要なのは、2級・3級の試験とは違い、1級は記述式の試験であるという点である。そのため、2級・3級の知識を身につけるといっても、それは「書ける知識」を身につける必要があるということである。この点に配慮して、TACの講義では1級公式問題集を使い、2級・3級の知識を整理しつつ、それをどのように答案の記述に結びつけるかという点を中心に講義を進めていくこととしている。